

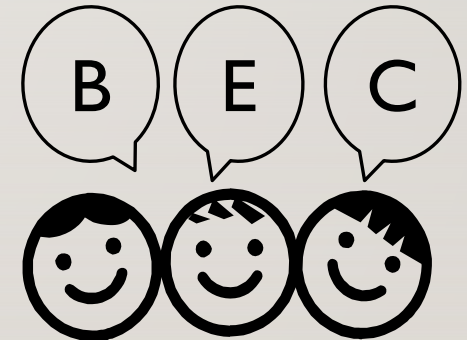
国立病院機構新潟病院 小児ABAリハ講演会

PRT[®] (自然環境下でのABAセラピー)の実践

上村 裕章

BEC 行動・教育コンサルティング[®]

[HTTP://WWW.BECINTL.COM](http://www.becintl.com)



ノーマライゼーション

厚生労働省

- 障がいのある人もない人も、互いに支え合い、地域で生き活きと明るく豊かに暮らしていける社会を目指すこと
- 障がい者の自立と社会参加の促進

ソーシャルインクルージョン【社会的包摂(ほうせつ)】

- 「全ての人々を孤独や孤立、排除や摩擦から援護し、健康で文化的な生活の実現につなげるよう、社会の構成員として包み支え合う」という理念
- 社会の中で全ての人々が平等に参加し、自分らしい生き方を実現することができるようにすること

⇨障がいや性別、人種、年齢などの差異に関係なく、誰もが社会の一員として尊重され、機会や資源に平等にアクセスできるようにすること

ならば

その（自然な）環境下で教育や療育を受ける必要がある！

障がいのある子どもたちが**ABA**療育を受けて **(B)** 成長した結果として **(C : OUTCOME)**

- 「tax payer」になってもらいたい
- 社会で活躍してもらいたい
- 幸福に生きてもらいたい
- 人生を楽しんでももらいたい
- 障がいをバリア（弱み）ではなく、武器（強み）にしてもらいたい

そのためには

早期発見 & 早期介入

が必要不可欠なのです！

社会的投資 (としての社会保障 日本を代表的なもの)

- 福祉を「投資」と捉え
 1. 一人ひとりが潜在能力を発揮できる条件を整え（環境調整：A）、個人がリスク回避する可能性を高め（スキル形成：B）
 2. 社会（とりわけ就労）への参加を促すことで（環境調整・合理的配慮：A）、社会的排除や貧困の解消（結果：C）を目指す

ABA SPEAKS

必要とする全ての子ども達にエビデンスに基づくABA療育を届けようと活動している親と支援者

- エビデンスのあるASDやその他の発達障がいのある子どもたちへの療育法ABAを日本で流布
- 「すべての自閉症幼児に、週20時間以上のABAを」早期ABA療育の公費化を追求
- 子どもをサポートする全ての保護者・支援者・教育者・専門家と協働して実践

<https://www.abeforeverybody.org>

PRT® の難しさ

- PRT® = **遊びベースのABAセラピー**
- 遊びを知っている（知識）
- 遊び方を知っている（知識）
- 遊べる（実践）
- 遊びに変化球がかけられる（実践応用）

いろいろな「遊び」の研究をすることが
PRT® の実践力上達のポイント！

PRT[®]は だれでもできる、いつでもできる、どこでもできる

PRT[®]=Pivotal Response Treatment 機軸行動発達支援法・ピボタル行動支援

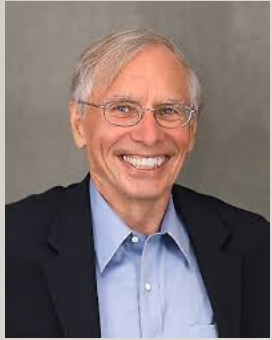
- Pivotal (基軸・機軸・中核)
 - ピボタル行動：特定の行動・領域に改善や発達が見られると、他の行動・領域における機能や反応にも改善や発達が促進される
- Response (反応・行動)
- Training→Treatment (訓練→支援法)

PRT®の目的

幅広い行動をターゲットとして自閉症児を定型発達児が辿る発達へと導き、
日常生活（自然環境）の中で質の高い生活ができるように
学習機会を提供することで、スキルアップを目指します

發明者

Dr. Lovaas Ivar
the father of ABA therapy (DTT)
恩師



Dr. Robert Koegel(弟子)

<https://profiles.stanford.edu/robert-koegel>

夫婦



Dr. Lynn Kern Koegel

<https://profiles.stanford.edu/lynn-koegel>



Dr. Laura Schreibman

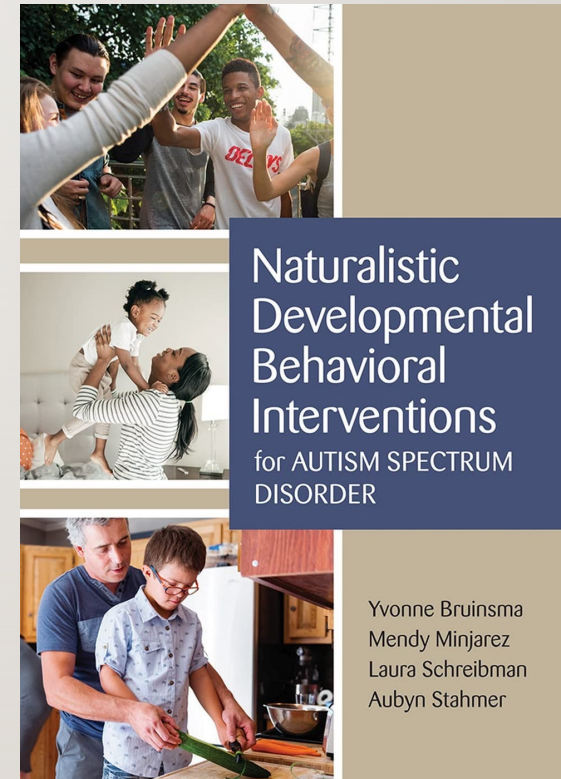
<https://profiles.ucsd.edu/laura.schreibman>

日常環境発達行動支援法

NATURALISTIC DEVELOPMENTAL BEHAVIORAL INTERVENTIONS (NDBI)

NDBI framework

- Pivotal Response Treatment (PRT[®])
- Early Start Denver Model (ESDM)
- Enhanced Milieu Teaching (EMT)
- Project ImPACT



PRT®ってなあに？

- 2001年に国際研究協議会（National Research Council of the National Academy of Science, 2001）によって自閉症児に対する効果的な療法（エビデンスベースド）として米国ではトップ10に認定
- 米国における ASD 介入のための 4 つの科学的根拠に基づいた実践のうちの 1 つ (Simpson, 2005)。
- 子どもの幅広い発達の要素とABAのテクニックが融合された**包括的な療法**
- 子どもの**自然環境の中での学習機会を提供**する
- 親のストレスが軽減すると共に子どもの状態も改善される
- **正常な社会的相互交渉の機会がなければ自閉症児の社会的発達**は難しい
⇔障がい児にとって重要な事 = **インクルーシブな教育の場での指導**

PRT[®]ってなあに？

- 子どものスキルの向上 = 家族間のポジティブな相互交渉
子どもに対するポジティブな感情
- 標的としていな行動の向上（波及効果 = ピボタル行動）
- **挑戦行動の減少**、子どもの情緒の変化、話し言葉の明瞭さの向上、
（プレ）アカデミックスキルの向上、常動行動の減少、社会性の向上 など
- **早期に、集中的に、日常的な**環境下で行う
- **連携モデル**（家庭、学校、その他の場面）

PRT®の実践によって得られる結果

- 子どもが5歳になる前にPRT介入を開始すると、85%～90%が主なコミュニケーション手段として表出でのコミュニケーションが発達
- ASDを持つ子どもたちは、介入を受けた後、社会的自己始発やおもちゃ遊びが増え、社会的回避や常同的な言語の減少が見られる
- 過去40年間以上にわたり、PRT®に関する200以上の論文が査読付き研究論文に掲載され、その有効性が裏付けられている

4つのピボタル領域

https://www.togetheraba.jp/post/__prt

PRT 4つのピボタル領域

1. 動機付け

やってみたい！試してみたい！というモチベーション。



2. 自己始発

自分から聞いたり、遊びに誘ったり、助けを求めたり。自分から人に働きかける能力。



3. 多彩な手がかりへの反応

遊びながら人の話を聞いたり、車のタイヤだけでなく車全体をみたり。全体に注意を払える能力。



4. 自己管理

嫌なことがあっても我慢したり、パニックにならなったり、嫌だと伝えたり。自分の感情をコントロールする能力。



ピボタル領域

「ピボタル領域」
直接介入を行った行動が改善すると、直接介入をした行動だけでなく、広範囲の行動にその結果が及び、獲得しにくい行動や問題行動の改善に波及する領域

⇔

1つ教えると、他のあらゆる行動にプラスに貢献する

なぜPRT®を用いるのか

1. 子どもが主体

- 自然学習法を使うため、介入は子どもの興味のある物の中で行われる = 子どものモチベーションをあげる

2. セラピーが楽しい

- “ドリル”学習では不満と抵抗を与えるが、PRTでは子どもが楽しんでいる・アクティビティをすることによってスキルを習得していく

3. 学習速度が速い

- 自然学習法は楽しく簡単に介入できるため、子どもが“セラピー”と感じず、ポジティブな結果が短期間でみられ始める

4. すべての環境で効果的

- 家庭、学校、臨床、公共の場等どこでも実践できる

5. ストレスの緩和

6. 行動が広範囲で影響する = 般化

DTTのセラピー時間を解消する最大の利点

- 日常生活の中で行うことができるので、
セラピーのためだけの時間を取れなくてもセラピーができる😊



DTT（離散試行型指導法） VS PRT[®]（ピボタル行動支援法）

DTT

統制された環境
シンプル

好子 = お菓子、褒め言葉、
ポイントなど

主導権：大人

お勉強スタイル

学習密度：高い

PRT[®]

自然場面（日常生活）
バリエーション豊か

好子 = そのもの

主導権：子ども（大人）

遊びスタイル

学習密度：低い

般化

DTT VS PRT®

DTT

統制された環境
シンプル

机でのお勉強
シンプルな環境で
シンプルな課題を練習

課題：「リンゴ」を選択する

1枚の絵カードを机に置いて
「リンゴ」の指示で子ども
にカードを触らせる

PRT®

自然場面（日常生活）
バリエーション豊か

台所で、リビングで、
スーパーで・・・
様々な手掛かりを呈示

リビングで、絵本にでてきた
リンゴに対して「リンゴどこ
だ？」などの指示で子どもに
リンゴの絵を触らせる

DTT VS PRT®

DTT

好子 = お菓子、褒め言葉、
ポイントなど

机でのお勉強
シンプルな環境で
シンプルな課題を練習

課題：「リンゴ」を選択する

1枚の絵カードを机に置いて
「リンゴ」の指示で子ども
にカードを触らせる

PRT®

好子 = そのもの

台所で、リビングで、
スーパーで・・・
様々な手掛かりを呈示

リビングで、絵本にでてきた
リンゴに対して「リンゴどこ
だ？」などの指示で子どもに
リンゴの絵を触らせる

DTT VS PRT®

DTT

好子 = お菓子、褒め言葉、
ポイントなど

机でのお勉強
シンプルな環境で
シンプルな課題を練習

課題：「リンゴ」を選択する

1枚の絵カードを机に置いて
「リンゴ」の指示で子ども
にカードを触らせる

PRT®

好子 = そのもの

台所で、リビングで、
スーパーで・・・
様々な手掛かりを呈示

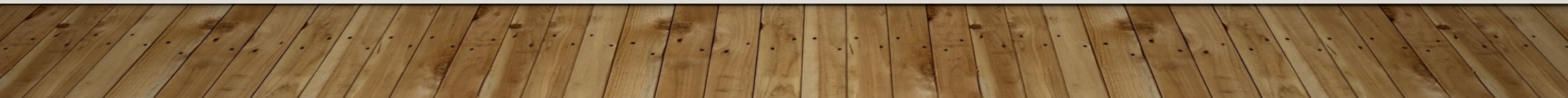
おやつの時間に、
「リンゴ、どっち？」と
聞いてリンゴを選択できたら
リンゴが食べられる

DTTとPRT[®]の長所

DTT

- 集中して教えやすい
- 1つのスキルを教えやすい
- 誰もが実行しやすい
- セラピーを実施した実感がある

PRT[®]

- 自発性が出やすい
 - ピボタル行動が生まれる
 - 楽しく学習できる
 - 般化しやすい
- 

DTTとPRT®の弱点

DTT

- 自発性に乏しい
- 般化がしにくい
- 学習が嫌いになる
- 強化子に左右される
- 時間がかかる

PRT®

- モチベーションに左右される
- 教えられる人が少ない

DTTのデメリットをPRT[®]で克服する

- 時間+労力+費用（専門家を雇うと）→ペアレント主体で日常的に実施できる
- 自発性に乏しい→自発性が出やすくなる
- 般化がしにくい→般化しやすくなる

結果、学習がより楽しくなり、学習速度が速くなる😊

PRT®を実践する際に気をつけること

「日常生活でDTTをしている」
にならないように

ターゲットを意識して行う

- 上手に遊べたらお菓子をあげる・・・はDTT

- NG

「何となく塗り絵したからセラピー」

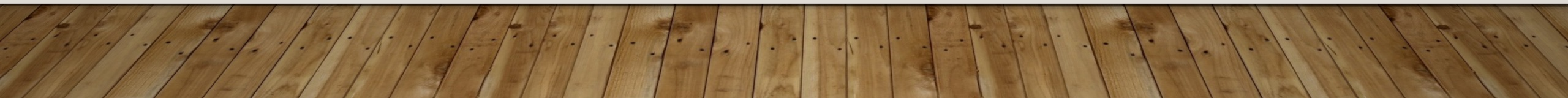
「お友達と仲良く遊ぶ」

- OK

「今日のはみ出しは2cmまでで白いところが大体なくなるまで塗る」

「今日の目標は順番交代のルールを守って遊ぶこと」

PRT[®]によってのばしていくスキル (ピボタル領域の改善が、多くの他領域を改善する！)

- 言語・（社会的）コミュニケーション
 - 認知（概念、知識）
 - 社会性（子ども・成人）
 - 遊び・余暇（趣味）
 - 姿勢・運動（粗大・微細）
 - 日常生活動作
 - ADL（食事、排泄、更衣、整容、入浴、移動 など）
 - IADL（買い物、料理、洗濯、電話、交通機関の利用、薬やお金の管理 など）
 - （プレ）アカデミック
 - 行動（挑戦行動の減少と改善）
 - 子どもと親のポジティブな関係性
 - 親のポジティブなメンタルヘルスの維持・向上
- 

PRT[®]のゴール（保育園・幼稚園時代）

・家と学校（幼稚園／保育園）の間でのモチベーション増加をコーディネートしながら、

（１）社会的コミュニケーションスキルを

（２）新しい環境（例：クラスルームや園庭）や人間（先生や他の子ども）の中で般化しながら

（３）プレ・アカデミックスキルの習得を目指す

学校という環境の中ですべての子どもたちが興味をもちそうなアイテムを発見し、置いておくことが重要

・社会的コミュニケーションスキル

・大人や他の子どもに対して反応したり自発的にコミュニケーションをとることができる

・プレ・アカデミックスキルの習得を目指す

ひらがなやカタカナ、色、形、数、身体部位などの受容と表出

はさみ、ぬりえ、線引き、迷路など

遊びを通して（自然設定の中で）

- 子どもが好きな遊び・活動をする
- 子どもに好きな遊び・活動そして何を使うか（材料）の選択権を与える
- コミュニケーション・社会性の課題を変える（子どもの興味を維持するため）
- 新しい課題を導入している時はメンテナンス課題（＝すでに習得済みの課題）を混ぜる
- 望ましい行動をモデリングする（例：順番交代をどうやるのか 等）
- 子どもの適切行動に対してのパフォーマンス（反応）へは自然な強化子を使う
例：『ブランコ』と子どもが言ったら、ブランコにのった子どもを押してあげる 等
- すべての子どもの試行に対して強化をする成功した試行のみを強化しない
行動形成（シェイピング） vs 試行強化

PRT[®] 7つのコンポーネント

<反応のための機会を作る A>

1. 子どもの注目を取る+明確で+簡潔なS^D（弁別刺激）を出す（DTT共通）
2. 主導権の共有（コントロールのシェア）
3. 維持（習得済の）課題と獲得（学習中の）課題の混合
4. 多様な手がかりへの反応性

<反応に対しての強化 C>

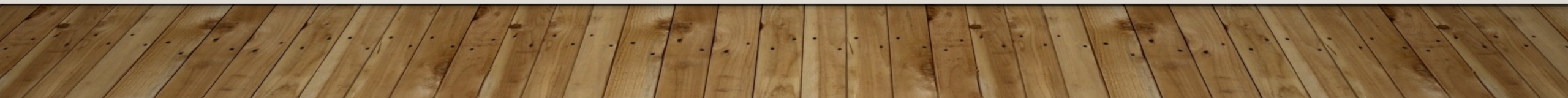
5. 即時・随伴強化（DTT共通）
6. 試み（ヤル姿勢）強化
7. 直接反応—好子関係性（自然好子の提供）

重要なこと

- 日常生活の中で子どもの関心を尊重し、親の適切な関与があると、反応性や積極的な参加が増えます
- 良いモデルがないことは**ASD**児にとっては以上な方法を学んでしまう原因になります
- **ASD**の子どもたちは定型発達の友だちを観察することを通じて適応行動を多く学んでいく

31

参考文献

-
- ・ Koegel, L.K., & Claire LaZebnik. (2004) *Overcoming Autism: Finding the Answers, Strategies, and Hope That Can Transform a Child's Life*. Penguin Books. (中野良顯 監修・八坂ありさ 訳 (2005) 自閉症を克服する—行動分析で子どもの人生が変わる—, 日本放送協会出版) .
 - ・ Koegel, R.L., & Koegel, L.K. (2006) *Pivotal Response Treatments for Autism*. Brookes Publishing Company. (氏森英亞・小笠原恵 監訳 (2009) 機軸行動発達支援法, 二瓶社).
 - ・ Koegel, L.K., & Claire LaZebnic (2010) *Growing Up on the Spectrum: A Guide to Life, Love, and Learning for Teens and Young Adults with Autism and Asperger's*. Penguin Books. (八坂ありさ 訳 (2011) 自閉症を克服する<思春期編>—学校生活・恋愛・就職をのりきる方法—, 日本放送協会出版).
 - ・ Koegel, R.L., & Koegel, L.K. (2012) *The PRT Pocket Guide: Pivotal Response Treatment for Autism Spectrum Disorders*. (小野真・佐久間徹・酒井亮吉 訳 (2016) 発達障がい児のための新しいABA療育—Pivotal Response Treatment®の理論と実践—, 二瓶社) .
 - ・ Koegel, R. L., Schreibman, L., Good, A., Cerniglia, L., Murphy, C., Koegel, L. K. (2011). How to teach pivotal behaviors to children with autism: A training manual
 - ・ 吉野智富美・上村裕章・吉野俊彦(2011) 発達障がい児を対象としたセラピー行動の操作的定義II: 応用行動分析に基づく自然環境場面におけるセラピー行動 神戸親和女子大学大学院研究紀要 7
- 

ABA療育2日間集中トレーニング講座

- 日時：2024.7.13-14（土・日） 10:00-16:00（計10時間）
- 内容：PRT®初級レベル
- 参加対象者：どなたでも受講できます
- 開催地：東京（渋谷駅または新宿駅周辺）
- 費用：22,000円（受講費） + 2,200円（BECオリジナルPRT®テキスト）
- 参加登録：お名前、ご連絡先（ご住所、メールアドレス、携帯電話）を記載の上
info@becintl.com までメールにてお申し込みをお願いいたします

😊THANK YOU😊

本日はご参加いただきありがとうございます😊

机上だけにとどまらず学習したスキルは
日常生活のさまざまな場面でも
できるようにしていきましょうね☆

またPRT[®]を実践しながら、
支援者（ご家族・先生）も子どもにとって
好子を与える存在になるのではなく
好子という存在になることが大切です😊



2009年9月ロバート&リン・ケーゲル博士@カリフォルニア大学サンタバーバラ校